



一般社団法人日本スーパーマーケット協会

平成29年11月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	55,551,633 万円	100.0%	101.9% (99.8%)	53,469,194 万円	100.0% (98.1%)
食 料 品	46,418,812 万円	83.6% (84.2%)	101.8% (99.7%)	44,890,274 万円	100.0% (98.1%)
農 産	6,719,162 万円	12.1% (12.3%)	96.3% (91.0%)	6,501,305 万円	94.7% (89.6%)
水 産	4,233,062 万円	7.6% (7.5%)	101.8% (97.7%)	4,088,863 万円	99.8% (96.0%)
畜 産	6,254,127 万円	11.3% (11.2%)	105.6% (107.2%)	6,035,038 万円	103.4% (105.3%)
惣 菜	5,271,598 万円	9.5% (9.6%)	102.5% (98.7%)	5,080,518 万円	100.2% (96.8%)
日配食品	10,465,734 万円	18.8% (19.3%)	101.6% (100.4%)	10,126,980 万円	99.9% (98.9%)
加工食品	13,475,130 万円	24.3% (24.3%)	103.0% (101.9%)	13,057,571 万円	101.3% (100.5%)
生活関連	3,739,250 万円	6.7% (6.6%)	101.2% (99.2%)	3,640,438 万円	100.1% (98.3%)
衣 料 品	1,928,659 万円	3.5% (3.2%)	101.0% (99.0%)	1,856,990 万円	100.2% (98.2%)
そ の 他	3,464,911 万円	6.2% (6.0%)	104.1% (102.4%)	3,081,493 万円	100.2% (97.2%)

② 数 値

全店総売上高	55,551,633 万円	店 舗 数	4,722 店舗
総売場面積	9,457,912.5 m ²	総従業員数	249,823 人

店舗平均月商	11,764.4 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,887.3 円 (100.3%)
月間m ² 売上(前月)	5.9 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	2,002.9 m ²
月間坪売上(前月)	19.4 万円 (19.7 万円)	パート比率(前月)	78.0% (77.8%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 11月の天候環境について、平均気温は東・西日本で低く、北日本は平年並み、沖縄・奄美で高かった。降水量は北日本日本海側と沖縄・奄美で多かった
- ・ 生鮮品の相場状況について、長らく続いた野菜の相場安は下旬には一転して相場高となった。特に「ほうれんそう」や「レタス」が前月の長雨の影響で育成が遅れ、月間を通して相場高であった。果実においては旬の「りんご」や「柿」が相場安であった。水産物においては市場への入荷量が少なく、相場高であった。畜産物では、和牛や国産の豚肉、鶏のむね肉が相場高であった
- ・ 前年と比べ、木曜日が1日多く、火曜日が1日少ない曜日廻りであった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 鍋商材として「生しいたけ」など菌茸類が好調であった
- ・ 「白菜」「キャベツ」などの重量野菜や、「大根」「にんじん」などの根菜、「じゃがいも」「たまねぎ」などの土物が相場安により不調であった
- ・ シーズンの出回りが遅れた「ぶどう」や「なし」が好調であった
- ・ 旬の「りんご」は相場安により不調、「みかん」は好不調が分かれる結果であった

○ 水産

- ・ 鍋商材では「たら」が不調、「ぶり」は好不調が分かれる結果であった
- ・ 水産全体の売上は回復傾向も、不漁による入荷量減少や相場高など、依然として厳しい販売環境が続いている

○ 畜産

- ・ 牛・豚・鶏すべての畜種と挽肉、加工肉が好調であった
- ・ 鍋商材では「牛すきやき用」や「豚しゃぶしゃぶ用」が好調であった

○ 惣菜

- ・ 新商品やリニューアル商品としての「米飯」「弁当」が好調であった
- ・ 「フライ」や「天ぷら」「唐揚げ」などの揚げ物が好調であった。その中でも「フライドチキン」強化の取り組み事例が多く、実績は好調であった

○ 日配・加工食品

- ・ テレビ番組の影響や健康志向の高まりにより、「納豆」「豆腐」や「らっきょう漬け」が好調であった
- ・ 昨年好調の反動により「ヨーグルト」「ヨーグルト飲料」が不調であった
- ・ 販促強化により「チーズ」が好調であったとのコメントが多く見られた
- ・ 鍋商材として、日配食品では「練り物」や「うどん」などの「チルド麺」が不調であったとのコメントが見られた一方、加工食品では「鍋つゆ」や「調味料」が好調であった
- ・ 昨年不調の反動により「ツナ缶」を中心に「缶詰」が好調であった
- ・ 菓子では「チョコレート」や「スナック菓子」が好調であった

○ ボジョレー ヌーヴォーの動向について

- ・ 予約販売・当日販売ともに前年割れのコメントが多い中、ペットボトルの販売は好調であった
- ・ 国産ニューヴォーやスパークリングワインの展開により、売上の底上げを図る取り組みが見られた

○ その他

- ・ 食品スーパーにおいてもブラックフライデーにちなんだ取り組みが見られた

以 上